

1 ○ 中丹地域における和牛繁殖農家支援の取組

2

3

中丹家畜保健衛生所

4

○岡本和久 林道也

5

【はじめに】繁殖和牛農家の高齢化や後継者不足による農家数減少に伴い、中丹子牛せり

6

市（せり市）上場頭数が年々減少する中、当所では黒毛和種の生産性向上のため、10年以

7

上にわたり、JA京都にのくに（せり市出荷頭数令和2年度実績：全体取引頭数461頭中71

8

頭と約15%を占める）と協力し、月に2回、繁殖和牛農家の繁殖巡回を実施したので概要

9

を報告する。【方法と結果】JA京都にのくに管内繁殖和牛農家15戸（令和2年度母牛飼養

10

頭数計109頭、2～23頭規模）を対象に、平成30年度から令和2年度までの3年間の取組

11

についてとりまとめた。黒毛和種125頭（年度平均41.7頭）に対し、延べ662件（年度平

12

均220.7件）の診療を行ない、109頭（年度平均36.3頭）を受胎させた。治癒した牛の平

13

均空胎日数は161.9日、繁殖診療における牛1頭あたりの平均診療回数は5.3回、平均診

14

療費用は13,711.1円であった。診療開始時の繁殖疾患としては卵巣静止(37.9%)と子宮内

15

膜炎(35.6%)が多く、この2つの疾患が7割以上を占めた。治療としては黄体遺残に対する

16

プロスタグランジンF2 α の使用が最も多く、約25.0%であった。【まとめ】今年度からJA

17

京都にのくにの畜産部門がJA京都と合併し体制が変化中、当所は今後も農家が畜産を

18

続ける一助となるよう質の高い巡回を維持、継続。上場頭数の維持、向上を目指す中で農家

19

の経営継承、法人化も推進し、京都生まれ京都育ちの和牛の生産性向上に貢献する。